

特集 野菜増産を支える技術

野菜増産を支える技術

高齢化、グローバル化する農業環境の変化に対応していくため、本県では野菜を中心として水田農業における生産力の向上や大都市近郊の立地条件を生かした生産の拡大が進められている。

これらを支える技術として期待される地下水位

制御システムや増産を進めている加工・業務用野菜の主要品目であるキャベツ、ホウレンソウについての研究成果を紹介する。

小林 尚司（淡路 農業部）

（問い合わせ先 電話：0799-42-4880）

加工・業務用ホウレンソウの現地実証栽培試験からの経営試算

品種「クロノス」を用いて現地実証栽培を行った結果をもとに、家族経営における経営品目の一つとして、10aの加工・業務用ホウレンソウを導入した場合の経営試算を行った。資材費は79,145円、労働時間は合計180時間となり、所得は14万円となった。

内容

神戸市や淡路市などで学校給食用として加工・業務用ホウレンソウの栽培が行われている。現在、淡路市では個別農家や営農組合、農業法人などが取り組んでいる。品種比較試験で葉色が濃く多収性であった品種「クロノス」を用い、稲作あとの9月に播種、12月に収穫する作型で、淡路市において現地実証栽培試験を実施した（表紙・写真）。その結果をもとに家族経営における経営品目の一つとして、10aの加工・業務用ホウレンソウを導入した場合の経営試算を行った。

資材費等の合計は79,145円、労働時間は栽培管理時間が90時間、収穫調製時間が90時間で合計180時間となった。収量は2.5t/10a、ホウレンソウの販売単価は当時の業者引き取り単価（契約単価）140円/kgとした。販売単価は手数料、運賃等の販売経費を差し引いた金額である。加工・業務用ホウレンソウは収穫調製で束にする必要がなく、また大株で出荷できるため、収穫期間を2週間と

見込むと、10aの栽培は家族経営での対応が可能となり、所得は14万円となった（表）。

普及上の注意事項

加工・業務用ホウレンソウは契約栽培となるため、販売単価、出荷条件などを確認する必要がある。

ホウレンソウは湿害に弱く、安定した生産を確保するためには、明きょや弾丸暗きょの施工と高畝栽培を行う。

竹川 昌宏（淡路 農業部、前農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0799-42-4880）

表 加工・業務用ホウレンソウの経営試算（円/10a）

粗収益		350,000	収量2.5t	
経営費	資材費	種苗	3,833 種子	
		肥料	38,576 堆肥、改良資材、複合化成	
		農薬	8,501 殺虫、殺菌、除草剤	
		光熱水	3,068 ガソリン・軽油	
		農具リース	19,167 播種機	
		その他	6,000 水利	
		小計	79,145	
	固定費	減価償却	91,497	農業倉庫、保冷库、トラクター等
		修繕	33,986	建物5% 機械2%
		利息	4,856	利率2.55%
小計		130,339		
計		209,484		
所得		140,516		

注) 固定費は経営規模1haとして計算した